

来春採用、製造業を中心に採用拡大

～ 採用「増やす」1.9 ポイント増の 41.7% ～

国内景気は長期低迷からようやく抜け出し、回復の動きが広がりを見せている。先行き不透明感からこれまで採用抑制を続けてきた企業も、業績の回復やリストラの一巡を背景に採用意欲が高まってきており、平成 17 年春の新卒者の採用数は今春に比べ大幅に増加する見通し（日本経済新聞社調べ）となっている。

このような状況下、当研究所は県内に事業所を有する企業を対象に、来春の新卒者の採用予定についてアンケート調査を行った。「採用する予定」と回答した企業は全体の 39.6% に当たる 132 社で、今春の採用実績をわずかに下回った。ただ、採用姿勢を固めていない企業が約 2 割を占めており、昨今の景気持ち直し局面から考えると最終的には上回ることが予想される。

採用を予定している企業のうち今春実績より採用数を「増やす」と回答した企業は 55 社の 41.7% で、前年調査（平成 15 年 12 月）に比べ 1.9 ポイントの増加となった。新卒者採用の姿勢は依然慎重なもの、企業収益の改善から採用マインドは好転してきており、製造業を中心に回復の兆しがみられる調査結果となった。

ただ一方では、人件費抑制のため正社員をパートや派遣社員に置き換える傾向が強まっており、即戦力を求めた中途採用を増やす動きなども広がってきていることから、新卒者の雇用環境が大きく好転するかどうかは予断を許さない。

【調査結果のポイント】

1. 来春、新卒者の採用を予定している企業の割合は全体の 39.6% で、今春の実績（42.3%）を 2.7 ポイント下回っているが、昨今の景気持ち直し局面から考えると最終的には上回るものと予想される。うち今春実績より採用数を「増やす」と回答した企業は 41.7% で前年調査に比べ 1.9 ポイントの増加となった。
2. 企業収益の改善から採用マインドは好転してきており、製造業を中心に回復の兆しがみられる。

【調査要領】

1. 調査時期 平成 16 年 8 月 4 日～9 月 6 日
2. 調査対象 高卒以上の新卒者の来春の採用予定
3. 対象企業 県内主要企業 860 社（回答企業 337 社：有効回答率 39.2%）

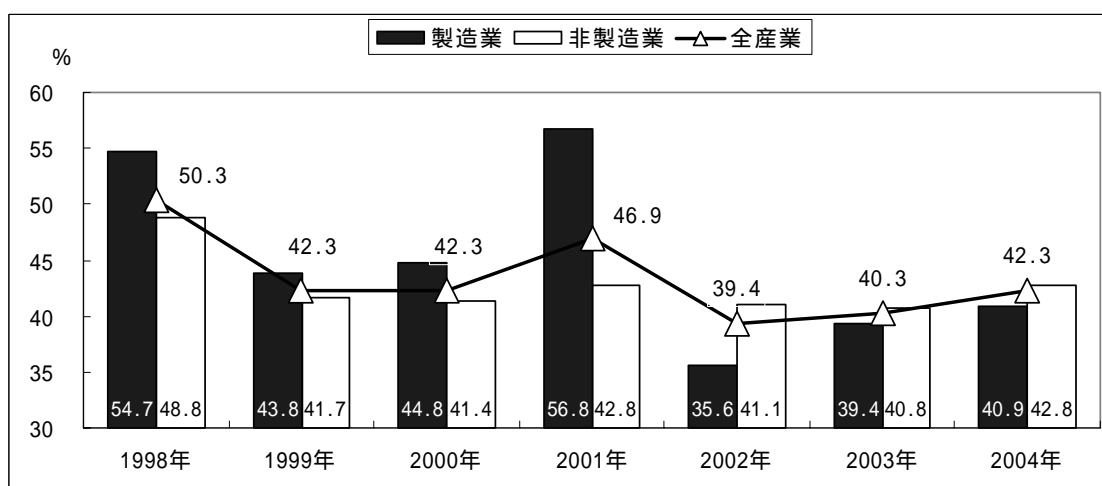
1. 新卒者採用の概況

新卒者を採用した企業の割合をみると、調査開始時の1998年には約半数の50.3%の企業が採用しているが、翌1999年は8ポイント減少して42.3%となり、2001年には46.9%まで回復したものの、翌2002年には再び減少して39.4%まで落ち込んだ。その後は緩やかながらも回復傾向が続いており、今春（2004年）は昨春より2.0ポイント増加して42.3%となり2年連続で前年を上回った。

業種別にみると、製造業は景気の動向に敏感に反応して毎年大きく変化しているのに対して、非製造業にはあまり変化がみられない。特に2001年は生産活動が活発だった半導体関連産業を中心に製造業は前年を12ポイント上回る56.8%もの企業が採用に動いたが、翌2002年にはIT不況の影響を受け21.2ポイント減少の35.6%と大幅に落ち込んでいる。一方、その間非製造業は42.8%から41.1%とわずか1.7ポイントの減少にとどまっている（図表1）。

このように新卒者採用は、製造業の採用動向に大きく左右されるものとなっている。

図表1 新卒者を採用した企業の割合

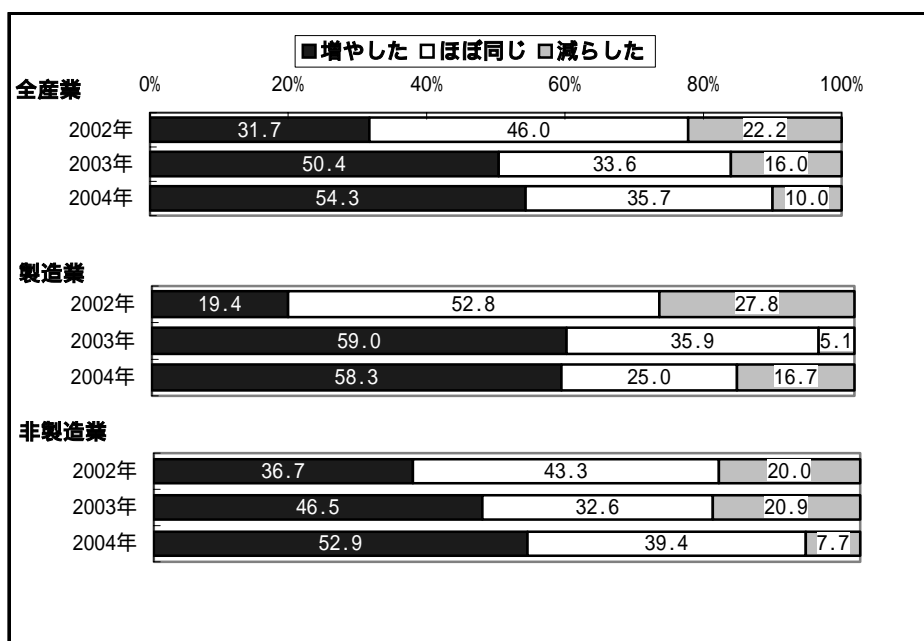


2. 今春の新卒者採用動向

今春新卒者を採用した企業のうち昨春より採用数を「増やした」と回答した企業は54.3%（前年調査50.4%）で、「減らした」と回答した企業10.0%（同16.0%）を44.3ポイント上回った。全体的に新卒者の採用に慎重さが多い中で、積極的に採用を進める企業もみられ、二極化の傾向がうかがえる。

業種別にみると、製造業は「増やした」が0.7ポイント減少し58.3%、「減らした」は11.6ポイント増加し16.7%となった。一方、非製造業は「増やした」が6.4ポイント増加し52.9%、「減らした」は13.2ポイント減少し7.7%となった。製造業は前年の反動もありやや抑制気味の動きとなったが、非製造業は卸売業やサービス業が大きく回復し全体を押し上げた（図表2）。

図表2 新卒者採用企業の前年比増減の推移



3. 来春の新卒者採用動向

来年度に新卒者の採用を予定している企業は、回答のあった333社中132社の39.6%で、今春の採用実績(42.3%)を2.7ポイント下回った。製造業は0.7ポイント上回っているものの、非製造業が3.9ポイント下回った。一方、予定していない企業は137社の41.1%で、「未定」の企業が64社の19.2%にのぼっている(図表3)。

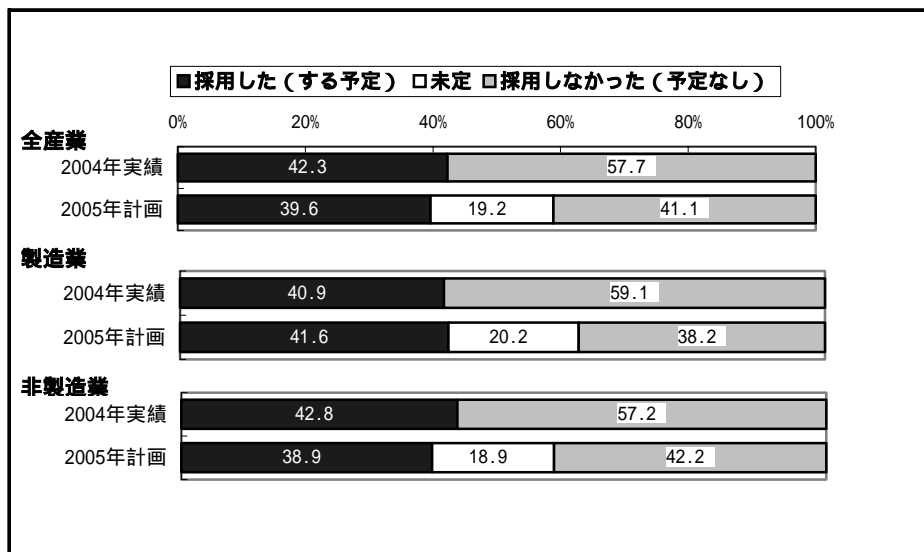
ただ、このところ県内景気は持ち直しに向けた動きが続いていることから、今少し景気動向を見極めようと採用姿勢を固めていない「未定」の企業が採用に動くことが考えられ、最終的には今春の実績を上回るものと予想される。

採用を予定している企業132社のうち、今春より採用数を「増やす」と回答した企業は55社の41.7%(前年調査比1.9ポイント増加)で、「同じくらい」が62社の47.0%(同3.9ポイント減少)、「減らす」が15社の11.4%(同2.1ポイント増加)となった。

業種別にみると、製造業は「増やす」と回答した企業は37社中15社の40.5%(同6.2ポイント増加)、「減らす」は4社の10.8%(同3.5ポイント減少)で、非製造業は「増やす」は95社中40社の42.1%(同0.4ポイント減少)、「減らす」は11社の11.6%(同4.8ポイント増加)となっている(図表4)。半導体関連を中心とした製造業や卸・小売業は採用数を拡大するなど積極的な採用姿勢がみられるが、建設業や運輸・サービス業は慎重姿勢を崩していない。

新卒者採用の姿勢は全体的には依然慎重さが残るが、企業収益の改善から採用マインドは好転してきており、採用数も製造業を中心に拡大する見通しで、来春の新卒者採用は回復の兆しがみられる。

図表3 来春の新卒者採用計画の今春実績比



図表4 新卒者採用数の前年比

